

衛星地球観測コンソーシアム設立総会Day2
カーボンクレジットによる持続可能な未来
2022年10月12日

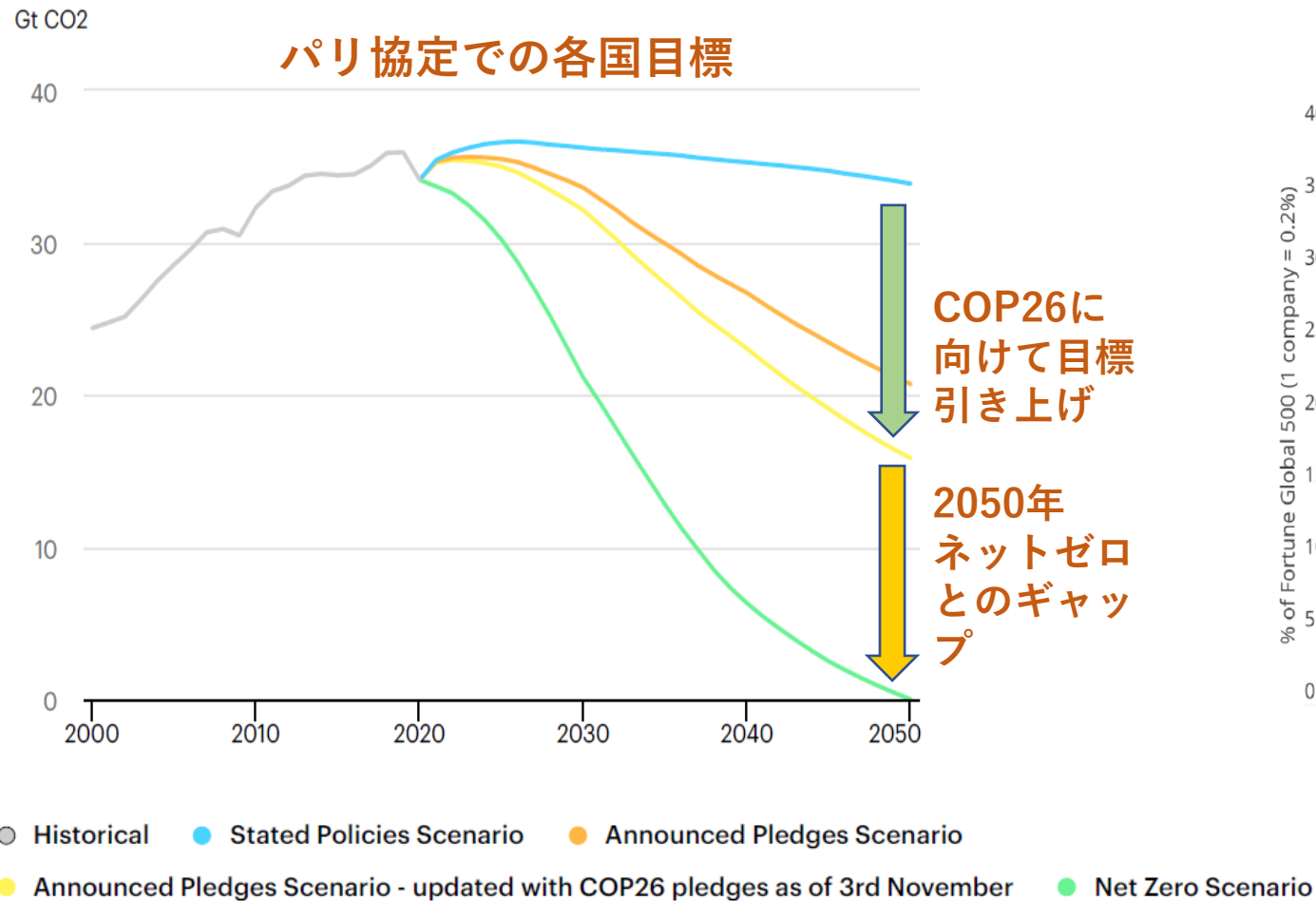
カーボンニュートラルとカーボンクレジットへの期待

三井物産戦略研究所
シニア研究フェロー
本郷 尚

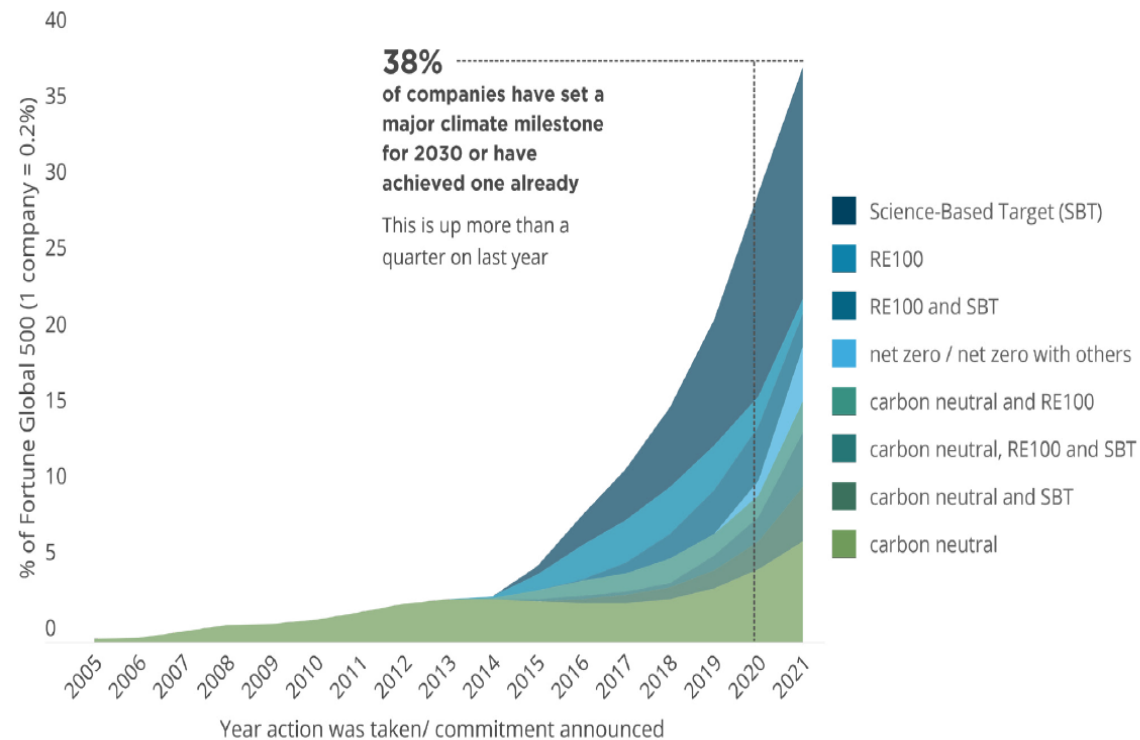
当たり前になったネットゼロ目標

◆ 多くの国が2050年ネットゼロを目標に掲げている。

◆ 世界の有力企業の約2割が炭素中立を宣言



Fortune 500企業

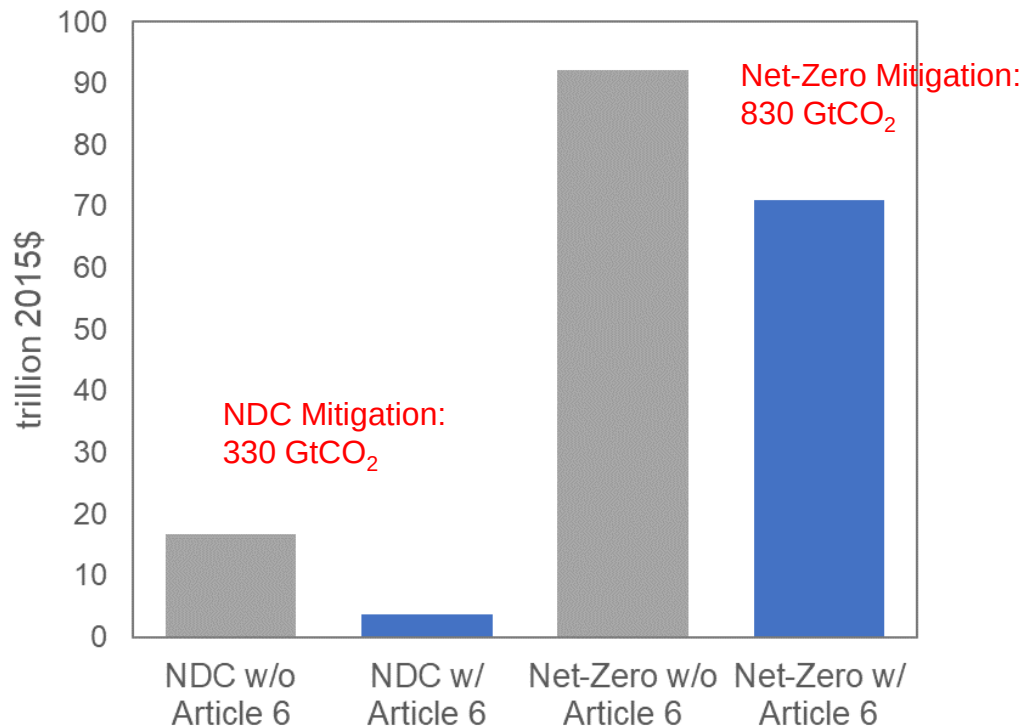


排出量取引のメリット

◆ 国際取引/分業の効果

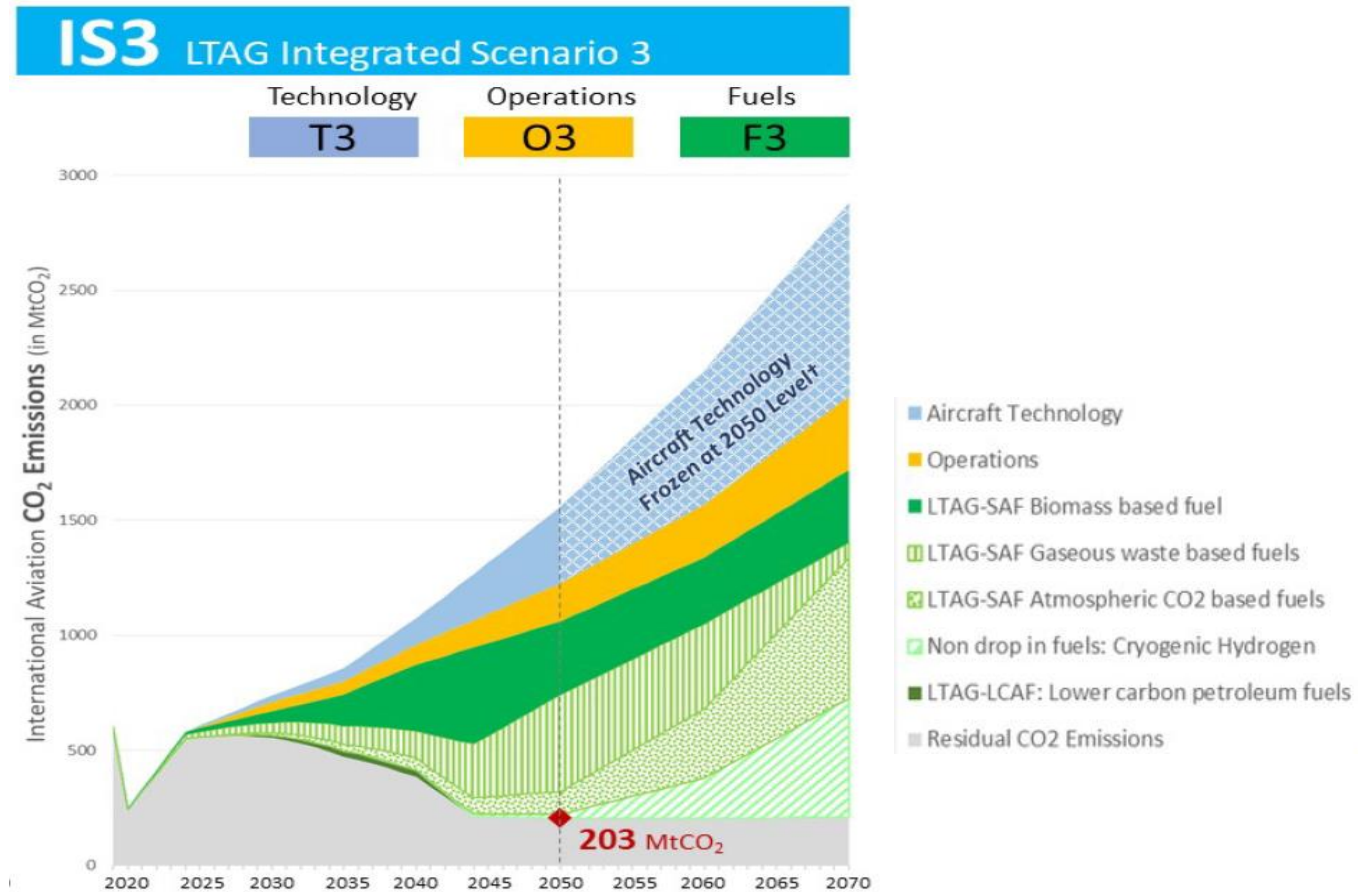
- ✓ 各国の削減コストは異なる。削減量を国際的に融通すれば、世界全体で削減コストは節約でき、節約分を再投資すれば追加削減が可能に

Mitigation Cost (2020-2050)



◆ Hard to Abate部門

- ✓ 国際航空はベストシナリオでも削減できない排出
- ✓ 炭素中立商品：CN LNG、グリーンステール、グリーンセメントなど



GXリーグとボランタリー市場のルール作り

GXリーグ 目標設定 : 1.5度目標、NDCに沿って独自に設定。中間目標も。
クレジット : 国内排出にはNDCに貢献するクレジット、国外排出やスコープ3 排出にはボランタリークレジットが基本か。

ボランタリーオフセットのルールづくり		
V C M I (需要側の提案)		
	主な内容	G X リーグとの比較
目標	2050年までにネットゼロ、中間目標(2025年など)	日本の削減目標(NDC)、1.5度目標と整合する目標を自ら設定
対象となる排出	サプライチェーン(スコープ3) 排出を含む	海外排出を含む。スコープ3 排出は企業毎に
認定制度	スコープ3排出を含めた達成状況によって、金、銀、銅の3ランクを認定	なし
利用クレジット	詳細な条件なし。ICROA、IC-VCMを推奨	日本のNDCへの貢献の有無で分類
I C - V C M (供給側の提案)		
削減量の算出	追加性、永続性、保守性など	未定
二重使用	削減事業実施国での削減量補正(相当調整)義務化の是非は今後検討	相当調整の有無に応じて使い分け
持続可能性	他の環境悪影響回避、持続可能性(SDGs)への貢献	SDGsへの貢献を期待するものの、定量化までは求めず
トランジション	脱炭素シナリオとの整合性、利用する技術に制限	技術は多様。利用する技術の制限は設けず

(注)「GXリーグとの比較」は、これまでの議論などから予想される方向性と比較したもの

デジタル技術の排出量取引への活用

排出量取引のバリューチェーンへの活用

①MRVとクレジットの発行、②登録簿などによる管理、③取引

IETA Code of Best Practice

Digital Carbonの市場秩序

デジタル・クレジット市場のガイダンスの主な内容（暫定）	
主な項目	主な要件
クレジットの信頼性	信頼できるクレジットからトークンを作る（ICROA基準など）
クレジットの所有者の移転、使用の管理	登録簿による管理。トークン化はプログラム管理者が許可
消費者保護、投資家保護	透明性の確保や十分な説明
持続可能性	排出量を低く抑える工夫
ITセキュリティ	十分なサイバー攻撃対策
二重使用の回避	取引は登録簿上で償却されたクレジットに限定
事業者の信頼性	監査や透明性

（注）国際排出量取引協会（I E T A）のホームページから作成

出所 本郷尚、排出量取引にデジタル技術 市場秩序のルール作りも、日経産業新聞Earth新潮流 2022年7月4日

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC28BJM0Y2A620C2000000/>